

5

南伊豆歩道(2) (入間―吉田)

(一般向)

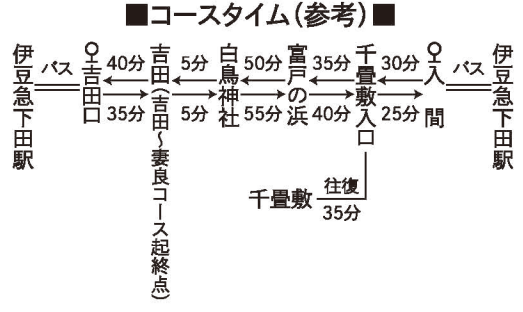
千畳敷と160mの断崖を行く

南伊豆歩道・入間―吉田コース(全長約4km)は、南伊豆歩道の中でも最も高低差があり、歩く難易度が高い。きつい分、海底火山が作ったダイナミックな景観を楽しめるコースだ。かなりハードなコースなので登山靴を履き、ストックを持つていくのが望ましい。また、体力をかなり使うので季節を問わず飲料水や軽食は十分に準備する必要がある。交通は不便なので、宿泊を伴う等のゆとりを持った計画を立てる必要がある。

入間のバス停から、そのまま広い道を海岸へと下っていく。入間の冬は風が強いので、海側は石垣で囲まれている。浜は深い入り江になっていて、夏には海水浴や磯遊びの家族連れでにぎわう。入り江の右手に見える船揚場がこのコースの入口。大きな案内看板がある。急な石段を上る。足元に生えている、冬でも青々としているハート形の葉は、フウトウカブラである。

上り切ると左に南伊豆町の小さな石柱。ここからいったん下ってまた上り。この先は滑りやすい箇所がある。入間のバス停から、そのまま広い道を海岸へと下っていく。入間の冬は風が強いので、海側は石垣で囲まれている。浜は深い入り江になっていて、夏には海水浴や磯遊びの家族連れでにぎわう。入り江の右手に見える船揚場がこのコースの入口。大きな案内看板がある。急な石段を上る。足元に生えている、冬でも青々としているハート形の葉は、フウトウカブラである。

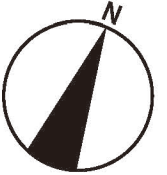
歩程 約3時間30分



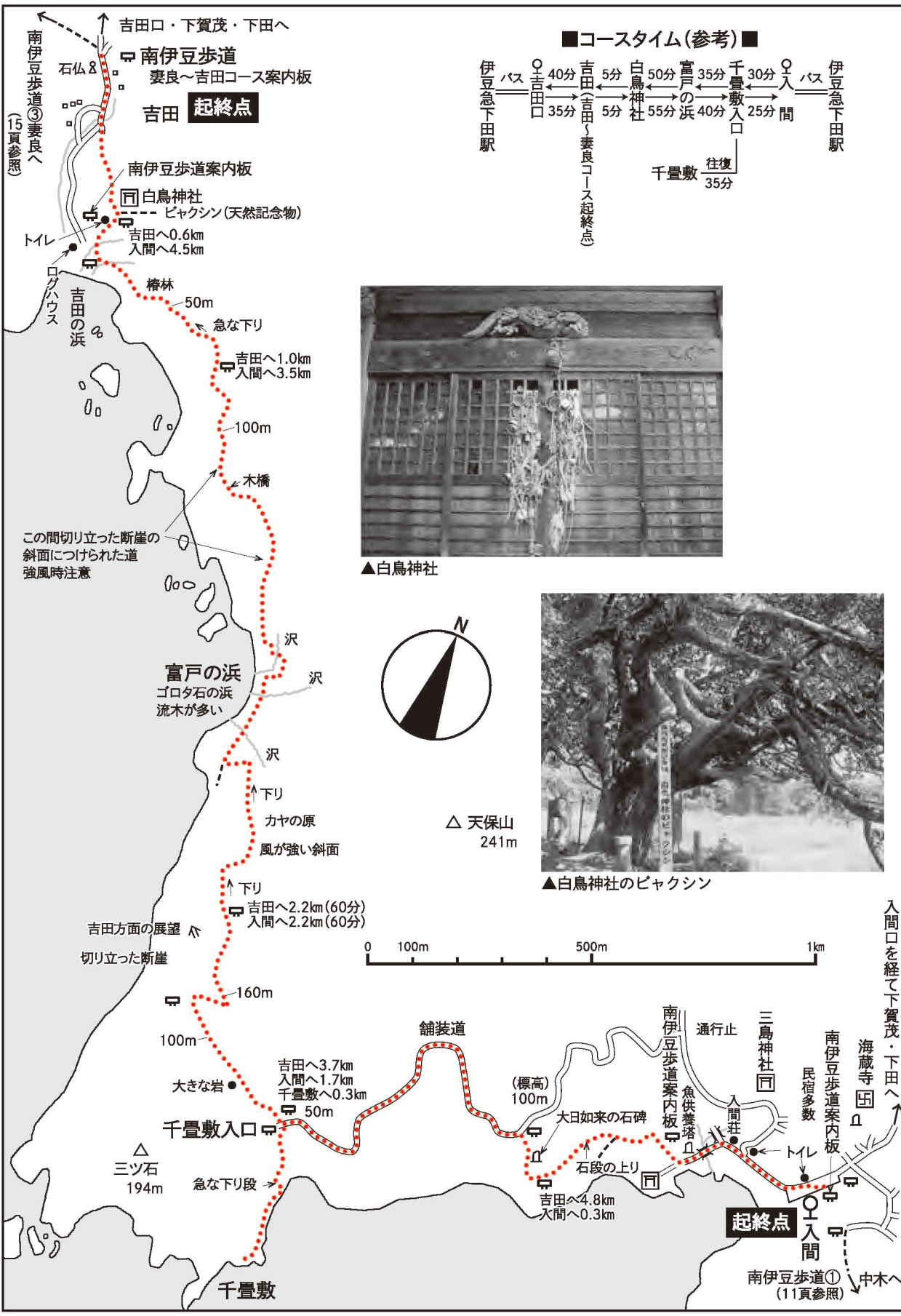
▲白鳥神社



▲白鳥神社のビヤクシン



△天保山 241m



▲千畳敷



▲吉田方面の展望

灰などからなる美しい地層を見ることが出来る。平坦な磯となっていて、磯釣りの名所としても知られている。千畳敷は伊豆半島ジオパークの中でも特徴的なジオサイトで、南伊豆町の小学生も授業で訪れている。林道の右側にある吉田2・5kmの案内標識からスズ竹の多い山道に入る。スズ竹がカヤの原に変わって上り切ると、高さ160mの絶壁の上に出る。ここからはどんどんと下っていく。

右側は深い谷になっていて、ちょうど尾根を歩くようなかつこうだ。カヤの斜面からジグザクに下る。季節風の時期にはまともに歩けないほどの強風が吹きつけるので注意が必要だ。

ゴロタ石の富戸の浜を突っ切って正面の沢に向かう。沢の右手から岩場を上り、沢沿いに上って行く。途中で、この沢を左へ渡り、急な斜面をジグザクと上って行く。断崖沿いに上って行くと左側が開けて、今歩いてきた三ツ石方面がよく見える。ここからは急に落ち込んだ斜面につけられた道で、アップダウンの一本道が続く。展望は良いが足を踏み外すと大変危険な道なので特に風の強いときは注意して歩こう。

下りがきつくなつてツバキの林を抜けると吉田の浜に出る。防波堤を歩き、中央付近から右に下り、沢を

渡ると正面に、樹齢約800年・県の天然記念物であるビヤクシンの茂る白鳥神社がある。

白鳥神社には日本武尊と弟橘姫命が祀られ航海安全と安産のお宮として知られている。安産祈願をし、無事安産を終えたら小穴の開いた「ひしゃく」と「麻ひも」を持つてお参りをする習わしがある。

神社前から舗装された細い道をたどると吉田の集落へ入る。アロエ畑が特徴的な小さな集落だ。広い道に出て、そのまま進むと南伊豆歩道吉田―妻良コースの案内看板がある。ここで打ち切る場合は、このまま車道を約2km歩くとバス停吉田口に到着する。